

北九州ブロック会議 活動概要

日時：平成 27 年 1 月 24 日(土)13:30～17:30

場所：岡垣サンリーアイ 2 階 207 視聴覚室(遠賀郡岡垣町野間 1-2-1)

平成 26 年度 会議テーマ フットパスを活用した地域の活性化

1. 講演

◆北九州市立大学 都市政策研究所 教授 内田 晃 氏

「フットパスの社会的意義および効果について」

フットパス発祥の歴史から掘り下げ、従来の観光スタイルとの比較や取組先進地の紹介、フットパスのポイント、中間市との連携取組について講演し、地域住民、大学(教育機関)、企業・団体、行政等、多様なセクターが分野の垣根を超えた連携の重要性を提唱されました。



2. フットパス体験

「ほっこり農園」加悦^{かえつ}店長のガイドのもと、海老津駅からスタートし、金毘羅山から^{こつぼね}小局にかけて各ポイント毎に解説を受けながら散策しました。

ゴール地点では地域団体「さとランド」様のご協力により手作りピザやお茶等が振る舞われ、加悦店長よりフットパスの取組について説明が行われました。



3. 懇談会

懇談会は、「北九州インタープリテーション研究会」代表の原賀様をコーディネーターに迎え、会議全体を通じての感想や意見を発表しました。

参加した方々は最初フットパスという単語自体耳慣れない様子でしたが、地域のありのままの自然やおもてなしに対する素晴らしさ、自分の地域での活用の可能性など、フットパスの魅力や趣旨について語り合いました。



福岡ブロック会議活動概要

【第1回】

日時： 平成26年10月26日（日）9：30～

場所： 白山神社及び首羅山遺跡
レスポアール久山

1. 地域の「宝」を活かした催しの視察

久山町にある国史跡「首羅山遺跡」の見学会に参加しました。

地元のボランティアガイドの方々の案内で、山歩きを楽しみながら中世山岳寺院の遺跡群を見学し、久山町の誇る「地域の宝」に触れるとともに、年に一度だけ開催されるこの見学会を盛り上げようとする地元ボランティアの方々の熱意ともてなしの心を感じることができました。



2. 福岡ブロック会議役員の改選

会長、副会長の任期満了に伴い、役員の改選を行いました。これにより、会長を「NPO 法人 管崎まちづくり放談会」斉藤理事長に、副会長を「唐津街道姪浜まちづくり協議会」川岡会長に務めていただくこととなりました。

また県協議会副会長の「特定非営利活動法人 はかた夢松原の会」井上事務局長に、これまでに引き続き参与を務めていただくこととなりました。



3. 意見交換

福岡ブロック会議の今後の活動や、参加団体が福岡ブロック会議に望むことについて、まちづくり計画研究所の今泉さんをコーディネーターに迎え意見交換を行いました。

参加者からは、「それぞれの参加団体の活動が行いやすくなるための取組みや、加入のメリットを感じられるような取組みが必要」といった意見が出され、活発な議論が行われました。



福岡ブロック会議活動概要

【第2回】

日時： 平成27年2月14日（土）13：30～、15日（日）9：15～

場所： 糟屋郡久山町内（ケイマンゴルフ場、久山町ヘルスC&Cセンター 他）
レスポアール久山

1. 久山町の地域づくりの取組みを巡るフィールドワークの実施

第2回ブロック会議は、「第12回九州・沖縄地域づくり会議福岡大会 in ひさやま」と連携する形で実施しました。

1日目は、国内でも珍しい「誰でも楽しめる飛ばないゴルフ」ケイマンゴルフの体験や、伊野天照皇大神宮をはじめ豊かな自然と歴史が息づく猪野地区の散策を行いました。また、ヘルスC&Cセンターでは、「久山方式」



の健康づくりの一端を見ることができました。



の健康づくりの一端を見ることができました。

2. 交流会

フィールドワーク終了後の交流会では、福岡県をはじめ九州各県から集まった参加者が、それぞれの団体のPR等を行い、親睦を深めました。

3. 講演「久山町研究を通しての健康づくり」

久山町が昭和36年から九州大学と共同で実施してきた健診による研究の成果と、健康づくりを通じたまちづくりの取組みについて久山町ヘルスC&Cセンター副センター長兼総括保健師の角森輝美氏にお話をいただきました。

その中で、C&Cセンターで開催される茶話会に公共交通機関を利用して参加した参加者への特典を設けるなど、住民の心身の健康増進だけでなく、地域振興にもつながる取組みが紹介されました。



4. 意見交換会

意見交換では、参加者が9つのグループに分かれ、自己紹介とそれぞれの団体の活動の紹介を行いました。また、各団体が抱える課題の共有やその解決方法についてなど、各グループとも活発な意見交換が行われました。



筑後ブロック会議活動概要

日時 平成 26 年 11 月 15 日(土) 10:00～14:00

場所 筑後船小屋 公園の宿(会議)

まるごとみやま秋穫祭会場(くすべえイベント視察)

<概要>

○ 会員団体からの取り組み状況報告

会員団体から、歴史や文化を県内外に紹介する取り組みや、グッズを利用した情報発信の取り組み等についての報告がありました。また、他団体と積極的に意見交換の場を設けているなど地域内での連携方法についても紹介されました。

○ 講話「くすべえプロジェクトの取り組みについて」

「矢部川くすべえ」復活プロジェクトは、地域特有のものを最大限に生かし、物語によっていくつもの地域キーワードを結び付け発信する地域活性化のソフト事業です。

筑後船小屋にある中ノ島公園の大楠林を巨大な生物に見立て、「矢部川くすべえ」という地域キャラクターを考案し、約3年間の準備期間を経て、平成26年11月1日にはくすべえの復活式が盛大に執り行われました。

本会議では当該プロジェクトの実現にご尽力された元山門青年会議所監事の黒木雄平氏を講師にお迎えし、くすべえプロジェクトの実現に至る過程や苦労点、キーマンの存在、今後の取り組みについてご講演いただきました。

出席者からは、「素晴らしい取り組みである」という感想や、よりプロジェクトを盛り上げていくための意見などが寄せられました。

今後、地域づくりへの活用が大いに期待されます。

○ まるごとみやま秋穫祭 くすべえイベント視察

みやま市内で開催されていた「まるごとみやま秋穫祭」のくすべえ絵本の読み聞かせ等のイベントを視察しました。





平成 26 年度 筑豊ブロック会議 活動概要

日時：平成 26 年 1 月 19 日（木） 13：00～16：00

場所：飯塚市歴史資料館（飯塚市柏の森 959-1）

麻生大浦荘（飯塚市立岩 1060）

参加人数：67名（事務局スタッフ、事例発表者、講師を含む）

〈概要〉

昨年度に引き続き筑豊に共通した地域づくりのテーマとして、「炭鉱」を取り上げました。麻生西日本新聞TNC文化サークル事務局長の竹川克幸氏に、「筑豊炭鉱の黄金時代と炭鉱王について」というテーマで講演していただいたほか、「筑豊の炭鉱関連遺産を活用した観光振興について」のテーマで、飯塚市を中心とした3名の方に事例発表していただきました。また、参加者の皆様に改めて筑豊の魅力に気づいていただこうと飯塚市歴史資料館及び麻生大浦荘の施設見学を実施しました。

【1】挨拶

引き続き筑豊ブロック会議の会長にご就任いただいた野見山ミチ子氏（直方川づくり交流会理事長）と事務局である県の石田賢哉地域企画監（福岡県広域地域振興課）より、挨拶を行いました。

【2】基調講演について

基調講演では、竹川氏（麻生西日本新聞TNC文化サークル事務局長）に伊藤伝右衛門をはじめとした「人」を掘り下げ、「筑豊炭鉱の黄金時代と炭鉱王について」というテーマで語っていただきました。

【3】フィールドワーク

飯塚市歴史資料館館内を同市教育委員会の毛利哲久氏に当時の炭鉱夫の生活などについてご案内いただきました。その後、「筑豊御三家」のひとつに数えられた麻生家の別邸である麻生大浦荘を見学しました。大浦荘は今も現役で使われている施設のため普段は非公開となっておりますが、今回特別に公開いただき、参加者の多くが関心深く見学していました。

【4】事例発表

事例発表では、飯塚市商工観光課長の石松美久氏からは大河ドラマやドラマ「花子とアン」の影響を踏まえた平成26年度の飯塚市の観光の取り組みについて、飯塚観光協会事務局長の江藤英雄氏からは今年度から事業がスタートした嘉飯物語について、福岡県観光・物産振興課の中園賢二氏からは炭鉱関連の史跡を活用した観光プラン作り等の取り組みについてそれぞれ発表していただきました。



野見山会長挨拶



竹川氏講演



麻生大浦荘見学



事例発表

平成26年度 第1回京築ブロック会議 概要(平成26年7月5日)

京築ブロック会議では、地域全体を博物館として、地域づくり活動に活かす「エコミュージアム」を共通のテーマとして開催しています。

【第1回概要】

日時:平成26年7月5日(土) 13:30~15:15

場所:コスメイト行橋 1階練習室

参加者:地域づくり団体や経済団体、観光業者など約60名

内容



(1)事務局説明「豊の国ふるさとミュージアム」のこれまでの取り組みについて

- ・平成13年に誕生した「京築まるごと博物館」という考え方やその具体像、「神楽の里づくり協議会」や「京築連帯アメニティ都市圏構想」の始まり、そして「エコミュージアム事業」の発足や事業の展開などを事務局から説明。

(2)基調講演「地域を磨く！エコミュージアムという考え方」

(発表:横浜国立大学大学院都市イノベーション 教授 大原 一興氏)

- ・エコミュージアムとは、社会とその発展のため、ある一定の地域全体でミュージアム活動をすることである。
- ・エコミュージアムは、「この地域で生きている自分」の実感、「自分自身が豊かになる満足感」を生み出すといった参加者個人への効果だけでなく、「地域環境や資産の日常的継続的保全」といった地域への効果も期待できるものである。

(3)ワークショップ「豊の国けいちくふるさとミュージアムにできることを考えよう！」

(発表:豊の国海幸山幸ネット 事務局 原賀 いずみ氏)

- ・平成26年度の「けいちくサルタヒコ養成塾」の概要について説明。平成26年度の事業の狙いとしては、①ふるさとミュージアムの概念の普及、②「京築めぐり」の企画実践、③子どもたちへ「ふるさと:豊の国けいちく」の伝承、である。
- ・ワークショップでは、昨年度の反省や今年度行うべきことを含め、ふるさとミュージアムでできることを考察。また、グループ分けを行い、グループごとに「京築小めぐりコース」を作成した。ここで検討した内容は、京築連帯アメニティ都市圏推進会議主催の観光キャンペーン「京築めぐり」の中で、実際にツアーコースとして活かされた。